

## ②地域を“みず”から守る 吉田川・高城川 命と生業を守る流域治水の推進

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所  
宮城県

キーワード 流域治水、住民参加、広報

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

水害対策の課題を踏まえ、「命と生業を守る流域治水推進計画」を策定し、浸水被害の軽減と農業の持続的な発展を目指した取組。流域治水からシビックプライドの醸成につながる中で、地域の主要な生業である農業関係者と連携し、現場での丁寧な関係づくりを実現した点が評価された。

### 1. はじめに

宮城県中央部の太平洋側に位置する鳴瀬川水系吉田川・高城川流域は、水害常襲地帯である品井沼を抱え、度重なる水害と闘いながら、古くから水害防止のための事業が進められてきた地域である。

本事業では、これまでの治水対策における課題や近年の気候変動の影響による水害の激甚化・頻発化を踏まえ、流域のあらゆる関係者とともに、特定都市河川の法的枠組みを活用し、流域治水を更に推進することで、浸水被害の防止・軽減と、農業という生業の持続的な発展に資する「吉田川・高城川 命と生業を守る流域治水推進計画（法定名称：吉田川・高城川 流域水害対策計画）」を策定したものである。

### 2. 事業の概要

本計画を策定するに当たり、流域の土地利用状況や流域特性を踏まえ、流域自治体・県・国・農業関係者を含めた地域住民等、あらゆる関係者と連携し、行政のみならず住民も参加する各種勉強会、現地パトロール、課題の共有や意見交換会を通じて、流域治水の理解と普及に努めた。



浸水被害対策のイメージ

その上で、地域の発展と持続につながる取組を展開することで、誇りを持てる地域を流域全体で形成するため、「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」、「被害を減少させるための対策」、「被害の軽減・早期復旧・復興のための対策」の3本柱に、4本目の柱となる「命と生業を守る流域のサポート」を加え、吉田川・高城川流域の流域治水の実践を目指した計画としている。

### 3. 事業の成果

本計画は、令和6年11月に東北地方初として策定され、現在半年を経過したところであるが、取組状況を一例紹介する。

宮城県をはじめ、流域自治体、土地改良区及び農業者組織で構成する『宮城県田んぼダム実証コンソーシアム』において、田んぼダムの取組を推進している。吉田川流域で田んぼダムを実施する団体の一つでは、田んぼダム産のお米を用いた日本酒を製造し、地元の特産地酒として道の駅での販売を開始した。流域治水の実践により、浸水対策とともに地域の生業が継続される新たな形が現れ始めている。



田んぼダムの実施と田んぼダム産のお米による日本酒

また、地域住民に向けた流域治水の広報活動の例として、『流域戦隊チスイレンジャー』と題した絵本とオリジナルキャラクターを北上川下流河川事務所の若手職員が作成し、出前講座などを通じて、幅広い世代に展開している。

### 4. おわりに

今回紹介したものは一例であるが、今後も流域のあらゆる関係者と協働した流域治水を進めていくとともに、水災害から命や地域を守り、流域の持続的な発展へとつなげるため、今後も尽力していく所存である。

賛助会員 いであ(株)